

## エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

石神井修道院

今年も庭のはやとうりがたわわに実った。3年目である。昨年 コロナ禍でゆっくり散策していたら、枯れたはずの根から新芽が出ている。温暖化の影響？調べてみると南のほうの植物で、冬の気温が高いと多年草になるようだ。

黙想の家は、やっと10月に緊急事態宣言が解除され、中止になっていた研修会・黙想等のプログラムが動き出した。

緊急事態宣言が発出されるたびに、ニュースに出た飲食店と同じ悩みに直面した。



利用者の為に準備した沢山の食材・庭の季節の果物と野菜・頂き物等、工夫を要した。大量の果物(梅・プラム・ぶどう・甘夏等)は、下処理をしてジャム・シロップにし、使い切れないものは、後日作れるように冷凍に。野菜類は、にがうりのするめ漬け・わさび漬け・甘酢漬け等作り置きに。葉物類は下ゆでして冷凍保存を。他のものは、味・形・料理法を変えながら対応して乗り切った。

去年は、静修の講話を瀬本神父様にしていた。エコロジカルな話もあったが、霊操の原理と基礎を通して、神との関わり・人との関わり・自然との関わりを自己の救霊の為に感謝していただくことが心にひびいた。エコにも繋がる！神様からいただいたものを大切に使う。何事にも感謝をこめて。「もったいない」の言葉を祈りのうちに思いだした。これもエコ！都会でありながらも自然豊かな恵みを受けている共同体で、節電・節水・無駄をしない努力をしていきたい。